

奈良俊幸・福井県越前市長

「夢先生」「ものづくり出前講座」
「コウノトリ舞う里」のまちづくり

越前市は、福井県の中央部に位置し、05年10月に旧武生市と旧今立町が合併して誕生しました。しかし、市の歴史は大変古く、「大化の改新」（645年）の頃に越前国の国府が置かれ、以来、北陸地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。

産業面では、越前和紙や越前打刃物をはじめとする伝統産業から、

る本物のまちづくりを、越前市から進めていきたいと決意しています。

日本を覆う閉塞感は、近年、日本人が目先の利益に踊らされ、短期的な成果を追い求め過ぎた結果、他人を思いやる心を失い、自然との共生を軽視してきたことに大きな要因があったとの認識に立ち、長期的な視点から「ひとづくり、

夢を持つことの大切さ、仲間と協力することの素晴らしさなどを学ぶ「夢の教室」を開催しています。

また、市内企業の協力による小学校での「ものづくり出前講座」や中学校での「ロボットコンテスト」なども実施しています。

ものづくりの面では、福井県第一の製造業の一層の振興を図るため、05年度に「越前市産業活性化プラン」を策定（10年度改定）し、研究開発から販路拡大、特許取得に至るまで一貫した企業への支援を行っています。



○なら としゆき

1962年生まれ。85年早稲田大政経学部卒。90年松下政経塾卒業。91年福井県議。05年5月武生市長。同年11月越前市長。現在2期目。

●福井県越前市

人口約8万5000人。福井県のほぼ中央部。旧武生市には越前国府が置かれた。平安時代の「源氏物語」の作者、紫式部が越前国司として赴任した父とともに青春時代の1年余りを過ごした土地として知られる。旧今立町は越前和紙の里として有名。

まちづくりの面では、昨年40年ぶりに飛来したコウノトリが定着できる都市を目指し、10年度に「越前市コウノトリが舞う里づくり構想」を策定して、里地里山の保全再生や環境調和型農業を推進し、無農薬無化学肥料の「コウノトリ呼び戻す農法米」の生産等に力を注いでいます。

電子部品などの先端技術産業に至るまで幅広い産業が集積し、福井県第一の製造品出荷額を誇る「ものづくり都市」として発展を続けています。

私は市長に就任以来、「現地現場主義」をモットーに、市民との協働による「元氣な自立都市」の創造に努めています。併せて、この日本を覆っている閉塞感を打破す

ものづくり、まちづくり」に取り組み、越前市の基盤をさらに強固なものにしていきたいと考えています。

具体的な取り組みとして、ひとづくりの面では、子どもたちの夢を育む教育を推進するため、09年度に（財）日本サッカー協会と協定を結び、同協会から市内の全小中学校に「夢先生」を派遣いただき、

山の後も、長期的な視点に立って「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を目指してまいります。

「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を目指してまいります。